

# ふくろう新聞

< 発行 >

特別養護老人ホーム  
淡路ふくろうの郷  
広報委員会

洲本市中川原町中川原 28 番地 1  
TEL: 0799-25-8550  
FAX: 0799-25-8551  
ホームページ  
http://hyoufuku.main.jp/  
メール  
info@hyoufuku.main.jp

## サッカーもバーベキューも 平和でこそ楽しめる



7月5日(土)にふくろうバーベキューが 80 人の参加を得て行われました。

今年の目玉はワールドカップ開催国であるブラジルのバーベキューであるシュラスコでした。やはり外で食べる料理は普段と違うからか、入居者様もいつも以上の食欲でした。

(調理係：秦)

## 関西看護医療大学講義 そして、すし屋で奇跡・感動が



▲お寿司を食べた谷さんと喜ぶ  
大矢施設長

※写真の外では、妙子さん、看護師  
がハラハラ・ドキドキでした(笑)

7月2日(火)関西医療看護大学で老年看護学の講義を担当しました。勝楽佐代子さんは断種手術の話、北風章子さんはふくろう工房の仕事の話、黒崎時安さんはろうの子どもを産んだと責められて母が亡くなった後の苦難の話をし、次に、谷信義さん妙子さんご夫婦が、大矢施設長、看護師、言語聴覚士と一緒に、食べるリハビリなどについて

講義のあとは、いつもお世話になっているお寿司屋さんで計画通りにお昼ご飯を楽しみます。谷信義さんは、飲み込みが苦手で誤嚥を起こしやすいため胃ろうを造設し、現在リハビリによってようやくミキサーにかけて食品や、トロミをつけた水分を口からは食べられません。しかし、谷さんは妻の妙子さんや仲間・職員が

話をされました。まとめとして大矢施設長から、「障害があるから、自分でしたいこと・自己実現が阻まれても仕方ないのでしようか」「障害があったら自分で決める権利・自己決定権に干渉・介入されて当然なんでしょうか」と問いかければ、学生さん達も真剣な表情で考えてくれました。

中村公三事務長の退職に伴い、7月1日付で橋詰総務主任が事務長を兼務します。  
新たな体制のもと、自分たちの職務に関わる法律や制度を積極的に学び、相互の刺激のし合いで解らないことに気づく、高め合う、活発に意見を交わし合う職場づくりを目指します。

美味しそうにお寿司を食べているのをじっと見ていたかと思うと、すっとネギトロの軍艦巻きに手を伸ばし、周囲の驚きと心配をよそに、海苔の巻かれたお寿司をペロリと食べて、ここにこされていきました。  
大学や寿司屋という、そんな環境と体験が谷さんの意思を育て、自己実現を成し遂げられたのでしょうか。  
(言語聴覚士・齊藤)



▶左から、谷信義様、黒崎様、大矢施設長、谷妙子様

## 四半期を自己点検し各部署での振り返り

昨年度、一般社団法人兵庫県老人福祉事業協会が実施主体の外部評価を受け、職員は自分たちの仕事を見直すことの必要性を感じました。そこで今年度、各係、職員一人ひとりが目標を立て、3カ月ごとに振り返りを行うこととしました。そして今回、4〜6月の自己点検をそれぞれが行い、ここでは各係の目標と、どのように取り組んできたかを紹介します。

### 〇総務係

標としています。

- ① 入居者の家族関係や施設に入居するまでの人生などについて情報収集する。
- ② 規程・会計の勉強会を継続して行う。
- ③ 事務引継を速やかに行う。
- ④ 揭示物・文書は定期的に整理する。

### 〇生活援助係

- ① 入居者の人生を知る
- ② 職場内では必ず手話で話す
- ③ ケアプランに基づいたケアをする
- ④ 入居者の人生を知るために、毎月誕生会では、生い立ちをお話してもらいました。自分史作りを通じて、人生を学ぶ取り組みを行いました。

この4点を目標にしてみました。中でも力を入れたのは②の規程・会計の勉強会です。特に就業規則について条項に沿って勉強してみると、解釈が人によって違ったり、現状にそぐわない部分もあることもわかり、今後就業規則の改定に向けて取り組もうと考えています。

また会計については、来年度の新会計基準へのスムーズな移行と、総務係の職員皆が法人の運営状況を知り、分析できるようにすることを大きな目標としています。

意識づけが必要ですが、身体的ケアプランについては、身体的な支援に目が行きがちですが、入居者の人生の目標を含めた援助を行えるような、ケアプラン作りを目指していく必要があります。



▲入居者の人生を知るため耳を傾けます

### 〇健康看護係

- ① 入居者の家族関係や施設に入居されるまでの人生などについて情報収集している
- ② 手話の表現を増やす
- ③ 引き継ぎ時に日常の経過も加えて報告する
- ④ 新しい事業へ意欲的に取り組み、協力する

右記の4点を目標にしてみました。この3カ月間、相談員の協力を得て家族様と連絡の機会を頻回に作って頂き、また、来所時には看護

師も積極的に家族様とお会いするようにしてきました。食事の好みや入居されるまでの生活の様子などを知ることができ、家族様の想いなどを知る機会が多かったです。

ただ、その知り得た情報を引き継ぎ時に日常の様子と共に手話表現を使って生活援助員やほかの部署の職員と十分に共有できるまでは出来ていなかったため、今後はもっと知り得た情報を淡路ふくろの郷での生活に生かせるように努力していきます。また、新規事業へ日替わりですが対応しています。地域の方々に看護師の顔を覚えていただければ協力して行きます。

### 〇調理係

- ① 入居者の家族関係や施設に入居するまでの人生などについて情報収集する
- ② 入居者のお顔と食事形態を理由(身体状況)を含め把握する
- ③ 入居者の食べたい料理、嗜好等の情報収集を行う
- ④ ユニット調理実施にむけて、方法等を具体的に考える

今後は、調理時や盛付時にもその方のお顔を頭に浮かべながら真心をこめ、食べた方に笑顔になって頂けるような食事提供を目指していきたいと思えます。

- ⑤ 食中毒、衛生面に専門職として知識を持ち取り組む

この5点を目標にしてみました。最初に取り組んだのは②の入居者のお顔と食事形態を把握することです。調理職員の半数はパート職員の為、厨房で調理作業をしていることが多く、食事を配膳する際にしか入居者の方と接する機会がなかなかありません。

そこで、入居者のお顔の写真を介護の方から頂きフェイスにしたり、配膳時にお名前を聞いたりして把握に努めました。しかし、身体状況を含めての把握はまだまだこれからの課題です。

③の入居者の食べたい料理、嗜好等の情報収集については、入居者自身が積極的に「私これ嫌いだから、茄子の炊いたん作つて」等、言ってくださる方の個別対応は出来ていますが、入居者全員の嗜好等の把握もまだまだこれからの課題です。

# 新しい入居者の紹介

## 大東雪路様 (90歳)

大東雪路さんは5月末にショートステイの山ユニットから変わられ、川ユニットで長期入所になりました。

大東さんは若い頃はバレエの選手として活躍されたそうです。そのためか今も背筋はピンと伸び、姿勢よく過ごされています。また歌もお好きで、グループ訓練などでは、手拍子にあわせて歌を歌われていることも多く、素敵な歌声がユニットに響いています。

笑顔が素敵な大東さん。これからもっと笑顔が見ることが出来るようにお手伝いしていけたら、と思っています。

(生活支援係 原口)



## 吉見ご夫婦 (久様・輝子様)

和歌山市から吉見久さんと輝子さんが平成26年5月16日付に花木ユニットに長期入所されました。

久さんが32歳・輝子さんが22歳の時に両家の親同士が会って6〜7ヶ月ほどで結婚を決めました。現在は、娘1人孫2人が居て、バイクで5分位のところにある娘さんの家によく行っていたようです。

輝子さんは35歳から70歳まで、福祉関係の仕事がされたり、ろう学校寄宿舎の寮母として勤める傍ら、ろう者の作業所づくり、ろう者の女性の人権、社会参加の道を拓いて来られた方です。久さんはそれを支え続けられました。和歌山ろう



あ協会を土台に精力的に活動をされていました。また保育士をめざしたかったけど、音楽の試験で断念したと残念そうでした。

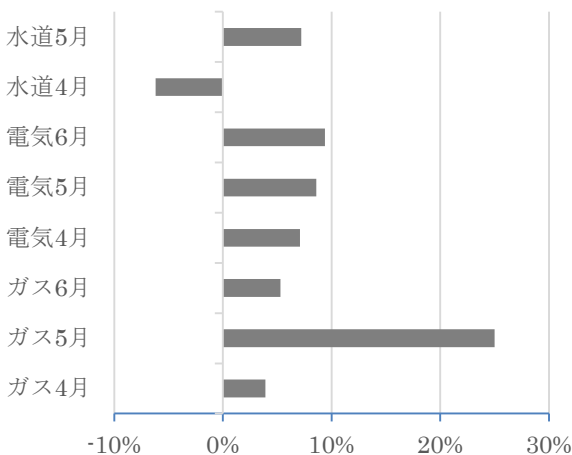
輝子さんの好きなことは、庭や風景をゆったりと眺めることや読書です。ふくろうで何がしたいのかを聞くと、2002年に出された自分史の続きを出したいと語られました。またユニットで役割を持てるようなものを一緒に探していきたいと思えます。また和歌山の友人がふくろうに遊びに来てくれるのを楽しみにされています。皆さんいっしょに吉見様から学びましょう。

(生活支援係 石川)

## 淡路ふくろうの郷 四半期(4〜6月)光熱水費報告

4月に消費税が増税、そのことで施設運営は厳しさを強いられております。そこでふくろうの郷では経常経費の見直しを図ることとしました。すると4月の水道代以外のすべての項目で、前年度より増加(ただし、約3%分までは、消費税の影響と考えられます)、特に、5月のガス代に至っては、前年度より25%も増加しており、早急な原因究明と対策が求められます。これから、暑くなる季節ですが、入居者様の快適な暮らしは守りつつも、水道水やエアコンの節制に努めてまいります。(会計担当 川満)

### 水光熱費の前年度より増えた割合



# 淡路聴覚障害者

## センター便り

洲本市港 2-26  
洲本市健康福祉館 3階

### 「おのころの家で夢をつむぎたい」 30年ぶりに帰郷

西本 薫さん(62歳)は、加西の福祉工場を定年退職されたことをきっかけに淡路に帰郷、実家を継いでいる兄宅の離れでの生活が始まりました。職安の手話協力員を通じ、センターに繋がりました。

西本さんの話では福祉工場ではろう者が十数人一緒に仕事をしており、また、ろう協会の会員として機関紙の編集にも携わったり、地元サークルにも参加したりして手話での会話、交流には不自由しなかった様子でした。

### ろう者ゆえ転職を余儀なくされ

西本さんは淡路ろう学校小学校部、中学部を経て神戸ろう学校高等部へ。ずっと寄宿舎暮らしです。卒業後淡路に帰り、印刷会社に入社しますが、給

料も安く、不安定なため2年余りで辞め、神戸の印刷会社に入社しますが、寮が閉鎖となり退職。淡路に戻り、瓦会社に入社するも赤字経営のため解雇となるなど、障害者ゆえ短期間で職を転々とせざるを得ませんでした。

当時淡路には手話通訳制度もなく、島外から通訳者がきて対応してくれたと振り返ります。30歳の時、加西の福祉工場に就職でき、定年まで勤めることができました。

### 帰郷するも孤独・孤立感

しかし、帰郷しても、兄夫婦は手話を学ぶ機会がないままで、筆談でもなかなか通じません。幼い時は聞こえなくても、地域の同年代の子供たちと一緒に遊んだり交流があった思い出深い故郷も30年にわたる長年の島外暮らしで、幼少時培った繋がりはなくなり、孤独、孤立・不安を募らせ「もつと働きたい」と職安へ行ったとのこと

### 仲間と共に集える場を

センター来所時、「働きたい」「ろう者仲間と交流したい」「手話で世の中のこと、みんなのこ

とを知りたい」との強い思いを訴えていました。さつそく就労継続支援事業所「おのころの家」を紹介。



▲おのころの家で仲間とつながった西本さん。墨絵や陶芸も挑戦したいと思いを語られます。

昨年10月からおのころの家の通所をはじめました。当初は週1回でしたが、現在は週3回に増え、ふくろうの郷の草刈りや線香の箱折などの作業に励まれています。西本さんは話します。「今は昔とは違う。淡路にはふくろうの郷やセンター、おのころの家がつくられたから、ろう者仲間との交流や相談もでき安心できる。ろう者にとつては手話で話せる仲間が絶対必要。こういう場所がなかったら、家に籠り気持ちはふさがったと思う。今は得意な「墨絵」や「陶芸」もやりたいと気持ち前向きになり、夢を持てるようになった」と。

(職員:辻)

### 第1回社会生活教室

#### 「夏に気をつけたいこと」

6月26日

洲本健康福祉事務所  
←佐藤恭代講師



熱中症で病院搬送される方は年々増えていきます。日頃から気を付けましょうと佐藤恭代講師



水分補給っていうけれど、水道水・ペットボトルどちらがいいの?と奥井大さん(南あわじ市)



数十年ぶりにろう生深々と西本さんと岡本さん(南あわじ市)に再会したと



毎日牛のお世話をしています。時々こうして仲間と参加するのが楽しみと大田原さん(淡路市)



3年ぶりに参加の西田さん(淡路市)とても楽しかった。これを機にまた参加したい。

社会生活教室は『日常生活用具について』・『スマホの意外な落とし穴』など今後も様々な学習を考えています。「〇〇について学びたい!」などご意見があれば気軽にセンターまでご連絡ください。

### おのころの家



〒656-0002  
洲本市中川原町中川原 222-2  
中川原ふれあいセンター内  
TEL・FAX 0799-28-0995

### 悪戦苦闘の農作業 〜おのころの家農業班日誌〜

中川原町に移転してから3  
か月が経ちました。  
地元の方から田畑を借りる  
こともでき、夏野菜作りに挑  
戦して2か月が過ぎました。

### カラスと知恵くらべ 〜まだまだ越えられませんか〜

スイカが順調に実り、大きく  
成長していたところ、カラスに  
つかれてしまいました。  
これではいかんと、翌日には  
野菜の上にテグスを張り巡ら  
せましたが、カラスの方が一枚  
上手で、次の朝には、またスイ  
カに被害を出す結果になって  
しまいました。

先に大きく育ってきていたス  
イカ5玉、全て廃棄すること  
になり、現在は網を購入し、ス  
イカの苗全体にかぶせて鳥の  
被害から守っています。

### キュウリやナス、野菜たちの予想以上の成長



▶かごいっぱい収穫したキュウリやナ  
スを手山野さん(左)と濱口さん(右)

野菜たちの成長が早  
く、土日を挟んで週明  
けの月曜日に取り入れ  
に行く、キュウリや  
ナスが大きく育ちすぎ  
た状態に。  
こまめに収穫をしな  
いと、野菜の成長は早  
いことを実感しまし  
た。  
最近はおクラやトマ  
トも順調に成長し、収  
穫出来ています。

### 初めてのミシンで縫製したバッグ

4月から週1で来られている今谷さん。  
「前買ってから使っていない布だけど、何か  
にして下さい」と持って来て下さいました。  
「何か作れるものはないかな」と本をみな  
ながら一緒に考えて、お稽古バッグを作るこ  
とにしました。本を参考に裁断し、作り始め、  
ミシンを使うのも初めてという彼女。使い方  
を説明して、まず他の布で練習しました。

キルティングの布だったので、オーバース  
テッチもしました。

回りを縫いピンク  
の持ち手をつけて出  
来上がりです。

「今度はポケットも  
付けてみたい」「医療  
センターで販売した  
いな、買って貰えるか  
なあ」と夢いっぱいの  
今谷さんです。

(職員 藤本)



利用者さんから「早く食べ  
たい」と、期待が大きかったス  
イカだけに残念です。  
残りのスイカが無事成長し  
て、みなさんと食べることが出  
来るよう見守り育てたいと思  
います。  
また、収穫された野菜はお  
のころの家で少量ずつですが、  
販売しております。

(職員 神代)

### 中川原小学校・ 保育所での移動販売

5月20日(火)に中川原小  
学校と中川原保育所で初め  
ての移動販売を行いました。  
2ヶ所での販売だったの  
で、いつもより多めにパンと  
クッキーを準備して持って  
行きました。

最初は売れるかどうかと  
ても心配でしたが、小学校で

〒656-0025  
洲本市本町7丁目3-41  
営業日時：月～金 9:00～18:00  
TEL・FAX 0799-22-6133

### 石窯の使い方を学ぶ～ふれあい工房桜ヶ丘講習会～



▲講師役の方から施設・石窯の使用方を教わりました

6月30日(月)にふれあいセン  
ターで開催された石窯の講習  
会に参加しました。  
これからふれあいセンターで  
石窯を使った行事がある時に  
は、参加、協力したいと思います。

は先生方に沢山買って頂き  
ました。  
又、保育所では園児のお迎  
えの時間に合わせて販売し  
た事もあり、保育士さんとマ  
マさん達にも買って頂きま  
した。今後、ママさん達の口  
コミで店舗での販売にもつ  
ながればと期待しています。  
(職員 岡本)

# デイサービスセンター 桜ヶ丘

## 書道講座を始めました。

6月からデイサービスをご利用いただくことになった佐藤智也子さん。以前はふくろうの郷で、ボランティアの書道講師を務めてられていましたが、ご自身の体調のことなどもありお休みをされました。

デイのご利用者様の人数が、テーブルを囲んで作品が見渡せること、おひとりおひとりに筆の持ち方、字のはね方など丁寧に声をかけができることと、「またできるならやりたい」という佐藤さんご自身の気持ちがい、デイサービスをご利用いただいている金曜日に合わせて講師として月1回、書道講座を担当していただけることになりました。皆様楽しく話をしながらひとときを過ごしておられます。秋のふくろうふれ愛まつりで

は、皆様の力作で作品展を開きたいと計画しています。  
(デイサービス 竹内)

「恥はいつもかいてるけど、字を書くくんは久しぶりやなあ」と利用者様



▲佐藤智也子先生(左)

## ボランティア募集!!

入

入居者の淡路島まつりおどり大会参加と高田屋嘉兵衛まつり花火大会鑑賞時のボランティアを募集します。ご都合のつく方は淡路ふくろうの郷まで連絡をお願いします。

TEL0799-25-8550/FAX0799-25-8551

おどり大会 8月 2日(土)  
花火大会 8月15日(金)

どちらも 16:00 に淡路ふくろうの郷に集合してください。

## いつもご支援ありがとうございます



◀今年もまた、高知県安芸市の上村由子様からなすびが届きました。



▲淡路ふくろうの郷地域交流会から七夕用の笹をいただきました。



7/5のBBQではお手伝いありがとうございました。

▶淡路ふくろうの郷地域交流会の皆様は新調した帽子をかぶってお手伝いしてくださいました。



7月6日(日)厚浜郷土芸能保存会の皆さんの踊りを楽しんだ後、一緒に七夕飾りを作りました。

ひとりひとり願いをこめて…  
「七夕かざり」を作りました。  
厚浜郷土芸能保存会

6月10日

書道講座

## 作品介绍



「蛙」  
兵頭美恵子様(83歳)



「あじさい」  
柴木義嗣様(68歳)